

# 研究構想図

学校教育目標

ものを言う ものに成る 人づくり

重点目標

知: 豊かな学び =主体的に「学び・考え」対話的に「ものを言い」「ものにする生徒」  
徳・体: 確かな育ち=「自分事」として「ものごとに正対」し「全力で取り組む」生徒  
気: 多様な感性 =様々な人の在り方を理解・尊重し、「協働する」生徒

身につけさせたい資質・能力

ふるさとを担う実践力

- ふるさとを愛し、誇りに思う心情
- チャレンジ精神、創造性、探究心等(起業家精神)
- 情報収集・分析力、判断力、実行力、リーダーシップ、コミュニケーション力等(起業家的資質・能力)

仮説を実証するための視点

①「ふるさとを担う実践力」が身につくような学びの場となる教科等横断的な授業実践  
【学力向上部会】

②「ふるさとのよさを知り、創り、拓くふるさと教育」と「夢、志を育てるキャリア教育」の推進  
【総合全体計画推進部会】

①家庭や地域に学習活動の様子を積極的に発信し、地域と協働して地域の課題解決に取り組む体制作り  
【情報発信部】

研究仮説

生徒がふるさとの現状から課題を見だし地域貢献活動を協働して行うことにより、ふるさとの新たな価値を創造する力を育み、「ふるさと大村」の魅力やよさについて理解を深めることで、自分の将来と関連させながら主体的に「ふるさと大村」を愛し、大村を担おうとする生徒を育成することができるであろう。

研究主題

「郷土（ふるさと）のよさを知り、創り、拓く中学生」の育成  
～ふるさとを担う実践力を育む持続可能な地域貢献活動を通して～

生徒の実態

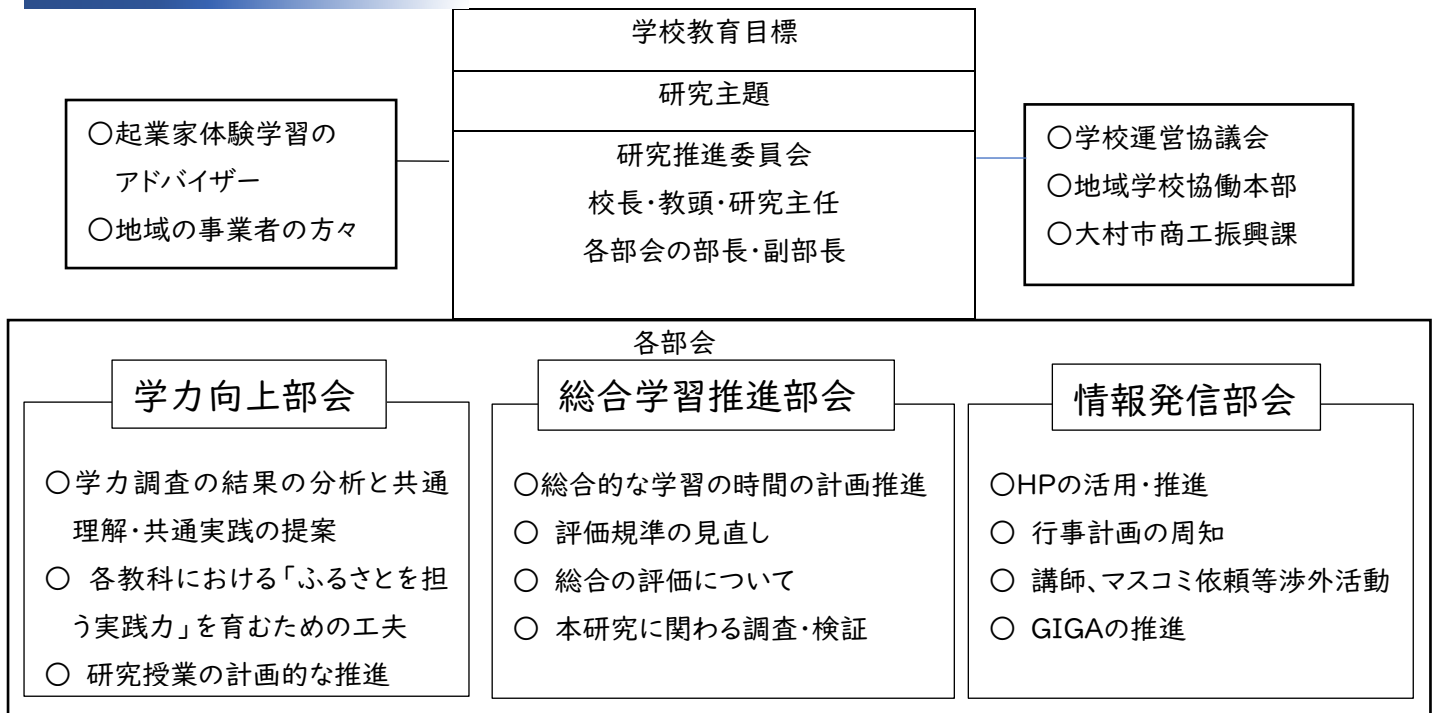
令和4年2月に実施した県教委のアンケート結果(単位 %)

質問事項	1年	2年	3年
自分の適性にあった職業を言うことができる。	60.0	66.9	66.4
自分たちが住む地域や学校のために、今自分ができることを考えて行動することができる。	87.0	85.6	75.2
将来大人になったときに故郷のために役立つことをしたいと思う。	86.1	85.6	75.2

○「自分たちが住む地域や学校のために、今自分ができることを考えて行動することができる」の割合は高く、これまでの「地域の現状から課題を見つける」という学習の効果が現れている。また、「将来大人になったときに故郷のために役立つことをしたいと思う」という項目は6月に実施したアンケートの結果よりも1年生は7ポイント、2年生は10ポイント増えており、特に2年生は起業家体験学習の成果であると考えられる。

△自己理解や職業観、勤労観に課題が見られ、自己の生き方と職業の関連づけが十分にできておらず、キャリア教育の必要性があることがわかる。

## 研究組織



## 「起業家体験学習に係る総合的な学習の時間」3年間の学習内容

	第1学年	第2学年	第3学年
<b>探究課題</b>	郷土(ふるさと)を知る	郷土(ふるさと)を創る	郷土(ふるさと)を拓く
<b>単元の目標</b>	自分たちが住む地域のまち作りやそれに携わる人々について調べる活動を通して、地域の特徴やよさ、町作りに携わる人々の思いに気づき、地域との関わりの中でふるさとの良さや課題、自分たちとの関わりについて考え実践する生徒を育成する。	起業の実行に向け、地域の活性化に取り組む人や様々なアイデアを持って起業している人の思いや願いから、ふるさとの新たな価値を見いだすとともに、自分たちに何ができるかを考え、課題解決に向けた起業家的資質・能力を育成する。	地域貢献を目的とした活動に主体的、協働的に取り組む中で、よりよいふるさとの未来を創造しようとする意欲を喚起し、地域に貢献することの意味を自分との関わりの中で考えるとともに、将来それぞれの立場や場面で積極的に社会に参画しようとする生徒を育成する。
<b>学習活動</b>	各地域に出向いたり、地域の方々から話を聞いたりし、地域の良さや課題など現状を知る。地域の方々とのつながりをたくさん作る。	仲間や地域と協働して起業する。(起業家体験学習) 販売・株主総会・利益を地域に還元する方法を考える。	起業家体験学習で利益が出た場合は地域に還元するとともに、地域社会と自分との関わりや、将来の生き方について考え、行動する。

地域を知る学習

起業家体験学習

ポスト起業家体験学習